

桂皮(ケイヒ)について

桂皮は漢方薬だけでなく調味料の原料として使われるために中国から大量に輸入されています。その 15% くらいが薬用として用いられます。桂皮は中国広東省南部～ベトナムにかけて自生するクスノキ科の樹木であるケイ(*Cinnamomum cassia*)の樹皮を用います。

日本薬局方ではケイを医薬品原料と定めていますが同じ成分を含むセイロンケイヒやジャワケイヒ、ニッケイなどの樹木があり香辛料として食品などに利用されています。

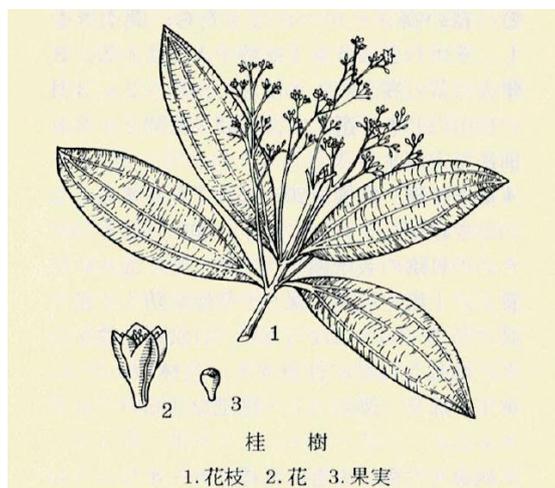
ケイ(シナニッケイ) = *Cinnamomum cassia*
セイロンニッケイ(シナモン) = *Cinnamomum verum*
ニッケイ(日本桂皮・肉桂) = *Cinnamomum sieboldii* or *loureirii* or *okinawense*

桂皮はケイアルデヒドやオイゲノールなどの成分を含み日本薬局方では風邪薬・解熱鎮痛剤・消炎薬・動悸抑制薬・強壯剤・婦人薬・芳香性健胃薬などの処方に利用されてきました。漢方薬では桂枝湯・葛根湯・安中散・五苓散・五積散・桂枝茯苓丸・柴胡桂枝湯・八味地黄丸・柴胡加竜骨牡蠣湯・・・その他多くの医薬品漢方処方に配剤されています。

中国では神農本草経(約 1800 年前に著作)に「牡桂」として上品に収載されています。後漢の時代に編纂された「傷寒論」という医学書には桂皮(桂枝)が配剤された処方がたくさん出てきます。

中国では主に ①中焦を温める補剤、②気の上衝を下げ気血営衛を整える解表剤、として用いられています。

日本には仏教の伝来とともに薬として導入され正倉院には「桂心」の名で収蔵されています。



ケイ *Cinnamomum cassia* 中薬大辞典より